

第 3 期富谷市食育推進計画  
中 間 評 価 報 告 書



# 目 次

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 第1章 中間評価におけるアンケート調査の概要 .....            | 1  |
| 1 調査の目的 .....                           | 1  |
| 2 調査の方法 .....                           | 1  |
| (1) 調査方法 .....                          | 1  |
| (2) 調査期間 .....                          | 1  |
| (3) 調査対象者、配布数等 .....                    | 1  |
| 第2章 中間評価におけるアンケート調査の結果 .....            | 2  |
| 1 調査結果 .....                            | 2  |
| (1) 回答者の属性について .....                    | 2  |
| (2) 食事の時間の楽しさについて .....                 | 3  |
| (3) 家族との共食状況について【朝・夕】 .....             | 4  |
| (4) 朝食の摂取状況について .....                   | 5  |
| (5) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度について【朝・昼・夕】 ..... | 5  |
| (6) 家での食事手伝いの状況について .....               | 7  |
| (7) 野菜の摂取状況について .....                   | 7  |
| (8) 富谷市産の農産物の入手先について .....              | 8  |
| (9) 黒川地域産の農産物を食べる頻度について .....           | 9  |
| 2 中間評価 .....                            | 10 |
| (1) 目標値の見直しについて .....                   | 10 |
| (2) 評価方法 .....                          | 10 |
| (3) 目標値一覧 .....                         | 11 |
| 3 課題と今後の取組 .....                        | 12 |
| (1) 子どもとその家族に向けた食育の推進（重点目標） .....       | 12 |
| (2) 生涯にわたって健康的に過ごすための食育の推進 .....        | 13 |
| (3) 地域の「食」を活用した食育の推進（重点目標） .....        | 14 |
| (4) 計画の推進に向けて .....                     | 14 |

## 第1章 中間評価におけるアンケート調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、第3期富谷市食育推進計画の中間評価を行うための基礎資料として、市民の食生活等がどのように変化しているのか調査及び分析を行い、これまでの取組の成果や目標の達成状況を評価するとともに、今後の課題を明らかにするため実施するものです。

### 2 調査の方法

#### (1) 調査方法

直接配布・回収によるアンケート調査（小・中学生児童生徒）

直接配布・回収によるオンラインアンケート調査（小・中学生保護者）

郵送による配布・回収によるオンラインアンケート調査（1～5歳児保護者）

#### (2) 調査期間

令和3年10月～11月

#### (3) 調査対象者、配布数等

| 調査対象者    | 配布数    | 有効回答数  | 有効回答率 |
|----------|--------|--------|-------|
| 小学5年生児童  | 201票   | 185票   | 92.0% |
| 中学2年生生徒  | 246票   | 231票   | 93.9% |
| 1～5歳児保護者 | 1,000票 | 494票   | 49.4% |
| 小・中学生保護者 | 436票   | 218票   | 50.0% |
| 合計       | 1,883票 | 1,128票 | 59.9% |

（参考）平成27年調査の調査対象者、配布数等

| 調査対象者    | 配布数    | 有効回答数  | 有効回答率 |
|----------|--------|--------|-------|
| 小学5年生児童  | 276票   | 253票   | 91.7% |
| 中学2年生生徒  | 267票   | 255票   | 95.5% |
| 1～5歳児保護者 | 984票   | 600票   | 61.0% |
| 小・中学生保護者 | 543票   | 508票   | 93.6% |
| 合計       | 2,070票 | 1,616票 | 78.1% |

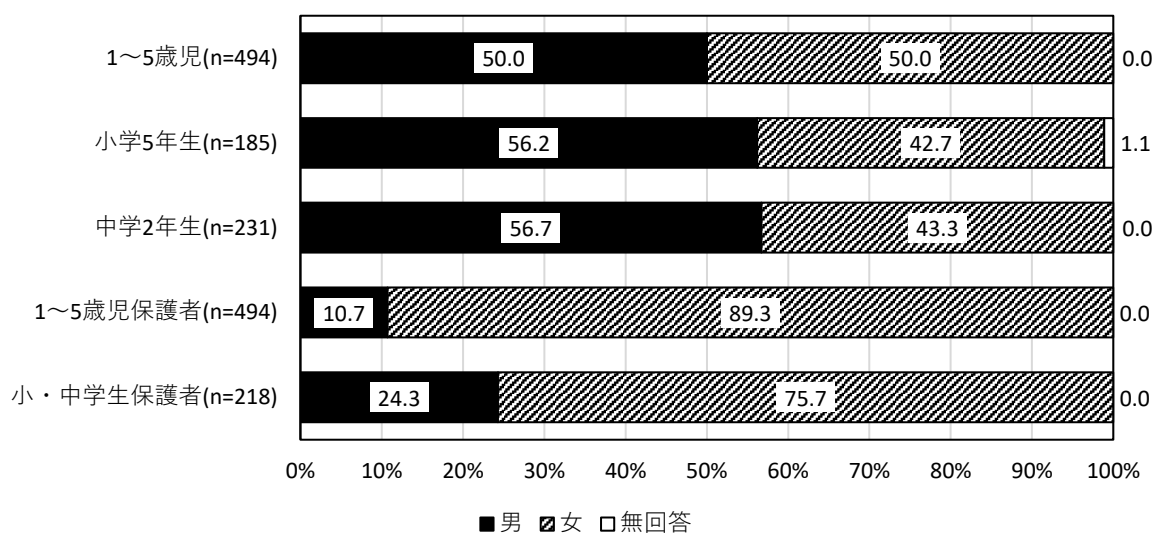
## 第2章 中間評価におけるアンケート調査の結果

### 1 調査結果

#### (1) 回答者の属性について

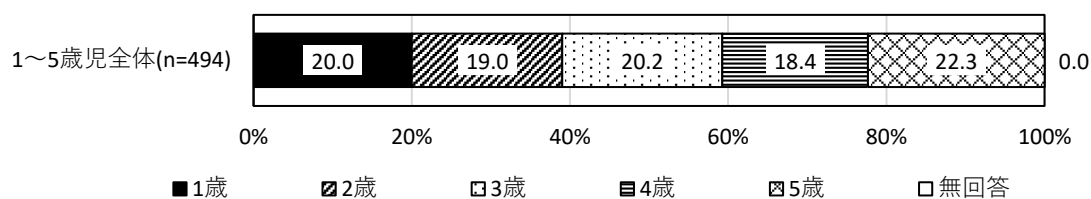
##### ① 性別について

子どもの性別は、ほぼ同じ割合となっています。保護者の性別は、女性の割合が高くなっています。



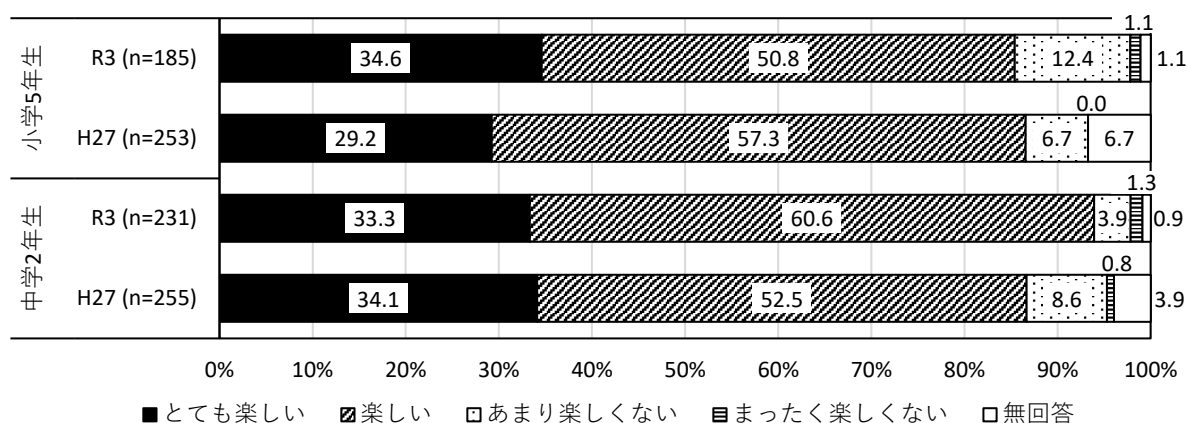
##### ② 1~5歳児の年齢について

1歳から5歳まで2割前後と、ほぼ同じ割合となっています。



## (2) 食事の時間の楽しさについて

食事の時間は、「とても楽しい」「楽しい」と回答する子どもの割合は、小学5年生が85.4%、中学2年生が93.9%と、ともに大半を占めていますが、小学5年生は平成27年調査より若干減少しています。



|                  | H27 基準値                | R3 中間評価        | R8 目標値             |
|------------------|------------------------|----------------|--------------------|
| 食事の時間が楽しいと思う人の割合 | 小学生 86.5%<br>中学生 86.6% | 85.4%<br>93.9% | 90.0%以上<br>90.0%以上 |

### <「とても楽しい」「楽しい」を選んだ理由>

| 小学5年生児童            | 件数  | 中学2年生生徒            | 件数  |
|--------------------|-----|--------------------|-----|
| 家族・友達と話ができる、食べる    | 48件 | おいしい               | 72件 |
| おいしい               | 45件 | 家族・友達と話ができる、食べる    | 53件 |
| 食べることが楽しい（好き、幸せ）   | 16件 | 食べることが楽しい（好き、幸せ）   | 41件 |
| 体にいい、元気になる         | 8件  | いろいろなものが食べられる      | 6件  |
| 何が出てくるか楽しみ         | 8件  | 普通という選択肢がなかった      | 3件  |
| 満足感がある             | 3件  | テレビを見ているから         | 2件  |
| その他 ※ <sup>1</sup> | 13件 | その他 ※ <sup>2</sup> | 10件 |

※<sup>1</sup> 色とりどりの料理はきれいで、好き嫌いがなく、テレビが見られる、放送が面白い、みんなが笑っている、毎日食べている、黙食で友だちと話ができない、お腹が空くと集中できない、ご飯はおいしいがそれほど楽しくない、「とても楽しい」でも「楽しくない」でもない、放送は楽しいがコロナで話せないことから「とても楽しい」ではない、毎日おいしい料理を作ってくれて楽しいが1人で食べることが多く「とても楽しい」ではない

※<sup>2</sup> 空腹が満たされる、給食時間は曲が聴ける、部活でフィジカルを強くするため、何も考えなくてよい、勉強しなくてよい、楽しいが友達と会話ができない、好みに合わないものや単調な料理が出る時もある、特に理由はない

### <「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」を選んだ理由>

| 小学5年生児童            | 件数 | 中学2年生生徒            | 件数 |
|--------------------|----|--------------------|----|
| 黙食                 | 7件 | 黙食                 | 3件 |
| 楽しくない、つまらない        | 3件 | その他 ※ <sup>4</sup> | 6件 |
| 食べることが好きでない、興味がない  | 3件 |                    |    |
| 好きなものがない、苦手なものが多い  | 3件 |                    |    |
| その他 ※ <sup>3</sup> | 5件 |                    |    |

※<sup>3</sup> なんとなく面倒、お腹が痛くなる、親と一緒に食べないから、食べているだけだから、テレビが見られない、早く寝るのが苦手で朝起きるのがつらくて行きたくないと思っているから

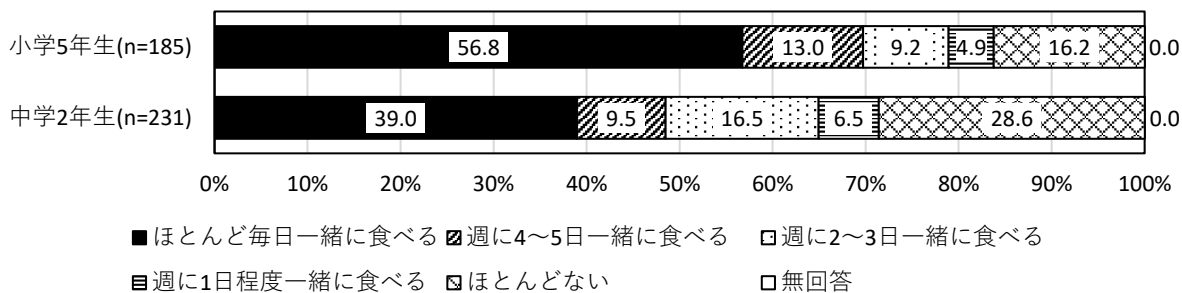
※<sup>4</sup> 家族全員で食べる時間が少ない、食事は楽しむものではないと教わった、時間がもったいない、楽しい要素がない、食事の時に楽しいという感情が湧かない、家族と一緒に食べることがイヤ

### (3) 家族との共食状況について【朝・夕】

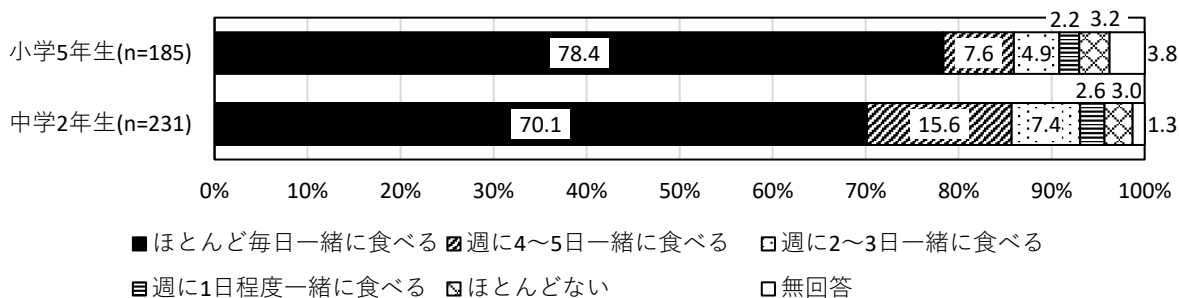
朝食は、「ほとんど毎日一緒に食べる」と回答した子どもの割合は、小学5年生が56.8%、中学2年生が39.0%と低く、年齢が上がるにつれて家族と朝食を食べていない子どもの割合高くなっています。

夕食は、「ほとんど毎日一緒に食べる」と回答した子どもの割合は、小学5年生が78.4%、中学2年生が70.1%と高く、7割以上の子どもが家族とともに夕食を食べています。

家族との共食状況【朝食】



家族との共食状況【夕食】



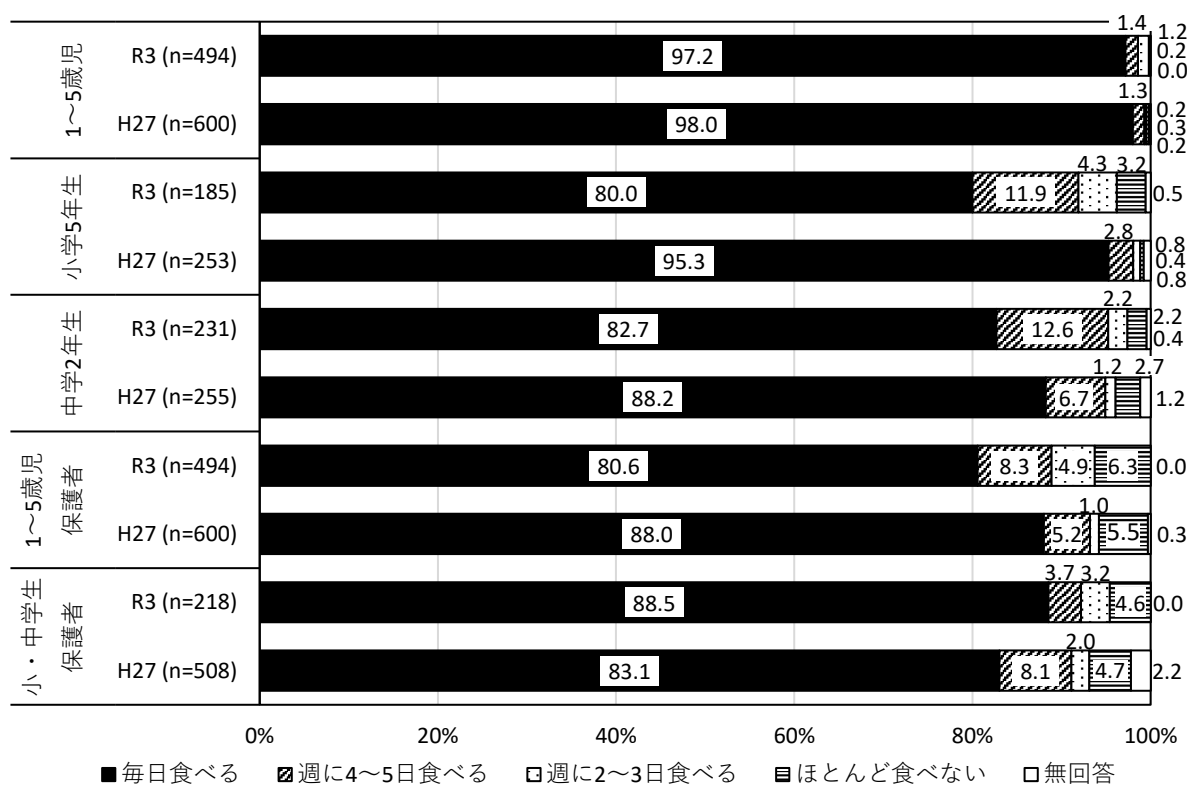
|                         | H27 基準値 | R3 中間評価                 | R8 目標値               |
|-------------------------|---------|-------------------------|----------------------|
| 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数 | 中間評価で調査 | 小学生 10.8 回<br>中学生 9.5 回 | 週 11 回以上<br>週 11 回以上 |

※ 共食の回数は、「ほとんど毎日食べる」を週7回、「週に4～5日一緒に食べる」を週4.5回、「週に2～3日一緒に食べる」を週2.5回、「週に1日程度一緒に食べる」を週1回として、朝食・夕食ごとに、当該人数を掛け合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を算出（農林水産省 令和2年度食育に関する意識調査）

#### (4) 朝食の摂取状況について

朝食を「毎日食べる」と回答する子どもの割合は、1～5歳児が97.2%、小学5年生が80.0%、中学2年生が82.7%となっており、平成27年調査と比較し減少しています。

保護者では、1～5歳児保護者は80.6%、小・中学生保護者は88.5%の方が、朝食を「毎日食べる」と回答しています。平成27年調査と比較すると、「毎日食べる」と回答する人の割合は、1～5歳児保護者では減少しており、小・中学生保護者では増加しています。



|              | H27 基準値        | R3 中間評価 | R8 目標値  |
|--------------|----------------|---------|---------|
| 朝食を毎日食べる人の割合 | 1～5歳児 98.0%    | 97.2%   | 98.0%以上 |
|              | 小学生 95.3%      | 80.0%   | 98.0%以上 |
|              | 中学生 88.2%      | 82.7%   | 98.0%以上 |
|              | 1～5歳児保護者 88.0% | 80.6%   | 90.0%以上 |
|              | 小中学生保護者 83.1%  | 88.5%   | 90.0%以上 |

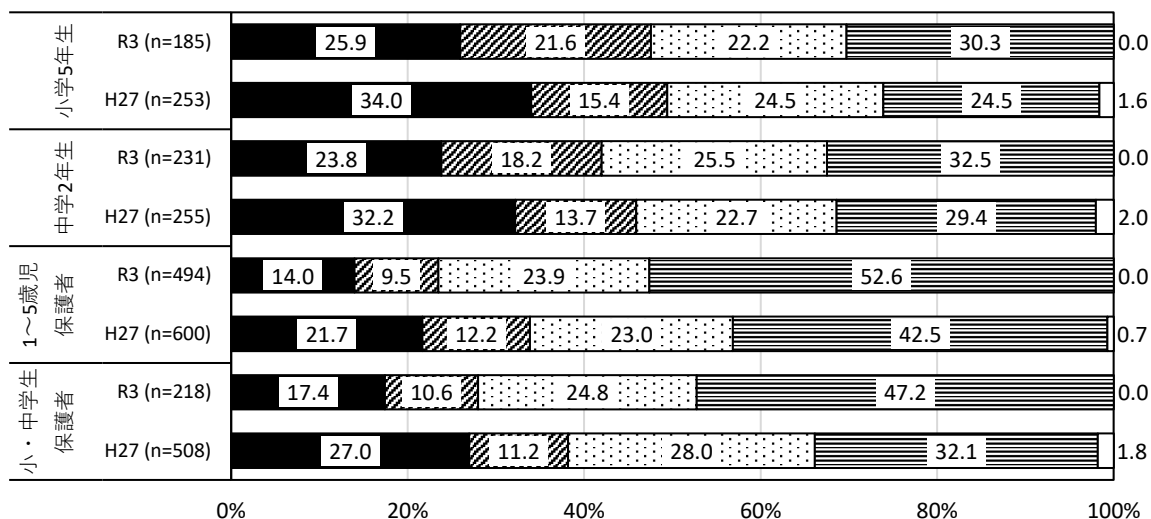
#### (5) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる頻度について【朝・昼・夕】

朝食・昼食・夕食すべてにおいて、どの年代においても主食・主菜・副菜をそろえた食事を「ほとんど毎日食べる」と回答する人の割合は、平成27年度調査と比較し減少しています。

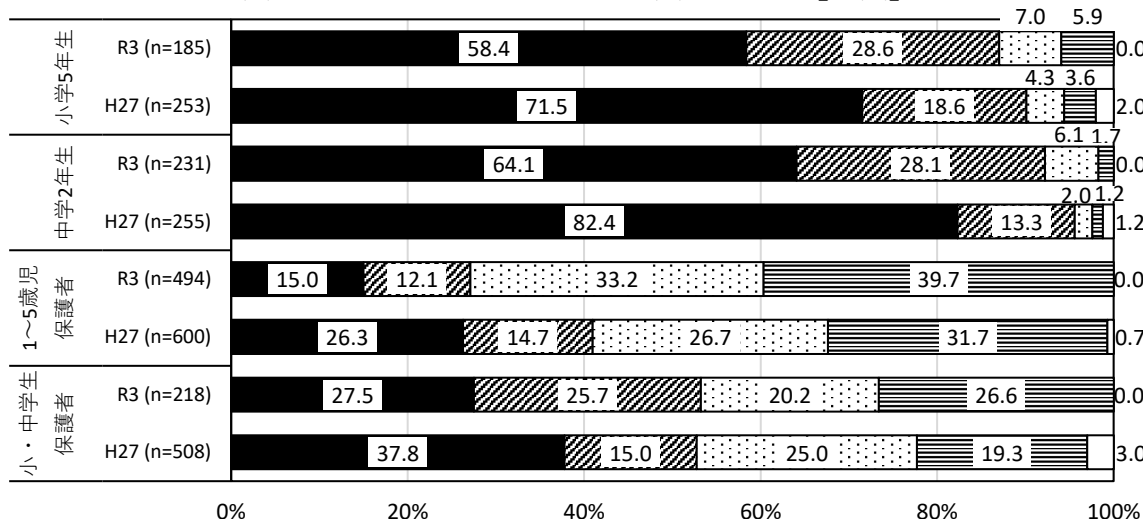
子どもと比べて保護者は、朝食や昼食で主食・主菜・副菜のそろった食事をしている割合が低くなっています。

|                               | H27 基準値        | R3 中間評価 | R8 目標値 |
|-------------------------------|----------------|---------|--------|
| 主食・主菜・副菜をそろえた朝食をほとんど毎日食べる人の割合 | 小学生 34.0%      | 25.9%   | 50.0%  |
|                               | 中学生 32.2%      | 23.8%   | 45.0%  |
|                               | 1～5歳児保護者 21.7% | 14.0%   | 35.0%  |
|                               | 小・中保護者 27.0%   | 17.4%   | 40.0%  |

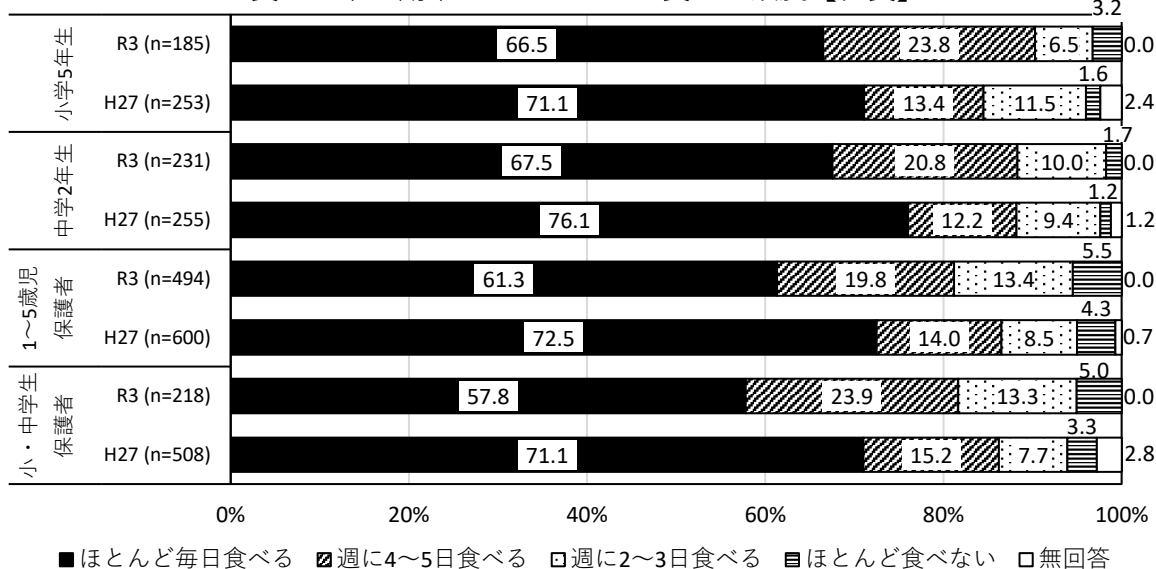
主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる頻度【朝食】



主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる頻度【昼食】



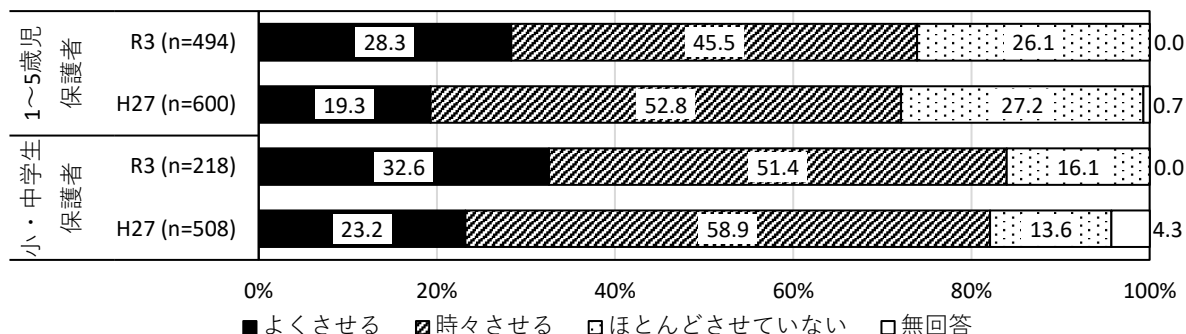
主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる頻度【夕食】



■ ほとんど毎日食べる    ▨ 週に4～5日食べる    □ 週に2～3日食べる    ▩ ほとんど食べない    □ 無回答

## (6) 家での食事手伝いの状況について

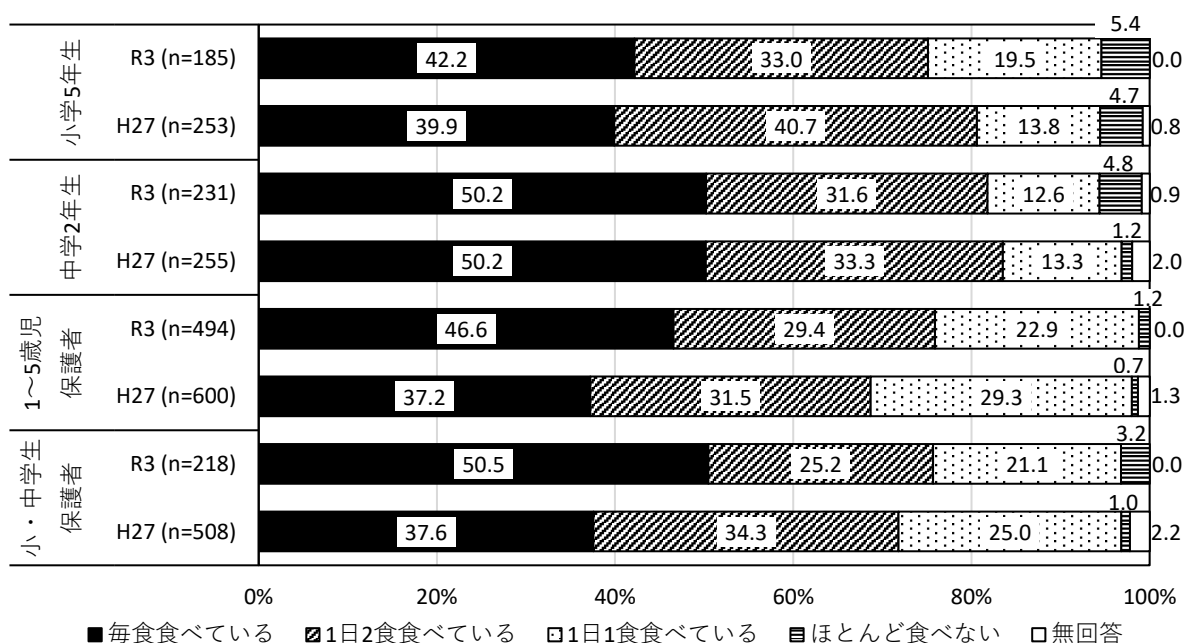
子どもに家で食事の手伝いをさせているかでは、「よくさせる」「時々させる」と回答した人の割合が、1～5歳児保護者が73.8%、小・中学生保護者が84.0%と、ともに大半を占めており、平成27年調査と比較すると若干高くなっています。



|                        | H27 基準値                        | R3 中間評価        | R8 目標値         |
|------------------------|--------------------------------|----------------|----------------|
| 子どもに家で食事の手伝いをさせている人の割合 | 1～5歳児保護者 72.1%<br>小・中保護者 82.1% | 73.8%<br>84.0% | 90.0%<br>90.0% |

## (7) 野菜の摂取状況について

野菜を「毎食食べる」と回答した人の割合は、小・中学生保護者が50.5%と最も高く、次いで中学2年生が50.2%、1～5歳児保護者が46.6%、小学5年生が42.2%となっており、どの世代においても平成27年調査と比較し維持または高くなっています。

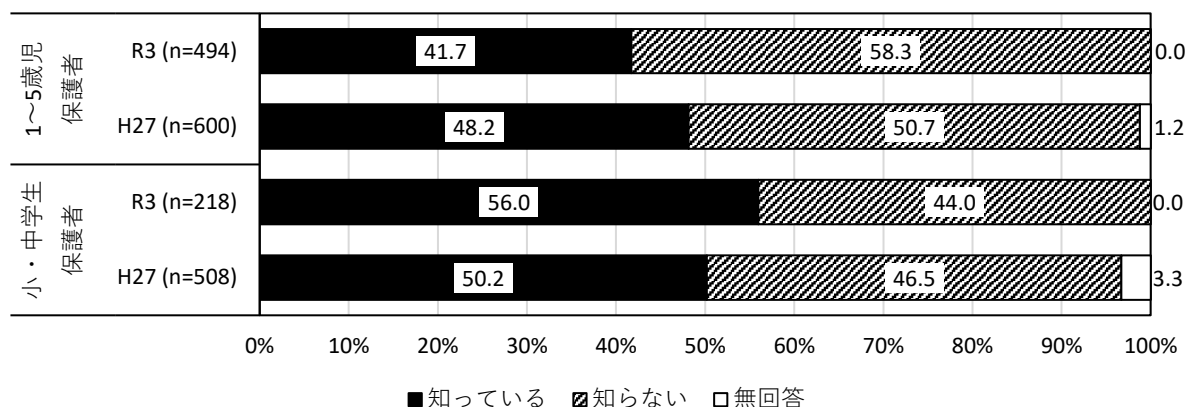


|              | H27 基準値                                                  | R3 中間評価                          | R8 目標値                           |
|--------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 野菜を毎食食べる人の割合 | 小学生 39.9%<br>中学生 50.2%<br>1～5歳児保護者 37.2%<br>小・中保護者 37.6% | 42.2%<br>50.2%<br>46.6%<br>50.5% | 50.0%<br>60.0%<br>50.0%<br>50.0% |

## (8) 富谷市産の農産物の入手先について

富谷市産の農産物がどこで入手できるか「知っている」と回答した人の割合は、1～5歳児保護者で41.7%、小・中学生保護者で56.0%となっており、平成27年調査と比較すると1～5歳児保護者では若干減少しており、小・中学生保護者では若干増加しています。

入手できる場所としては、「JAみどりのファーマーズマーケット元気くん市場」が突出して多くなっています。



|                             | H27 基準値                        | R3 中間評価        | R8 目標値         |
|-----------------------------|--------------------------------|----------------|----------------|
| 富谷市産の農産物がどこで入手できるか知っている人の割合 | 1～5歳児保護者 48.2%<br>小・中保護者 50.2% | 41.7%<br>56.0% | 80.0%<br>80.0% |

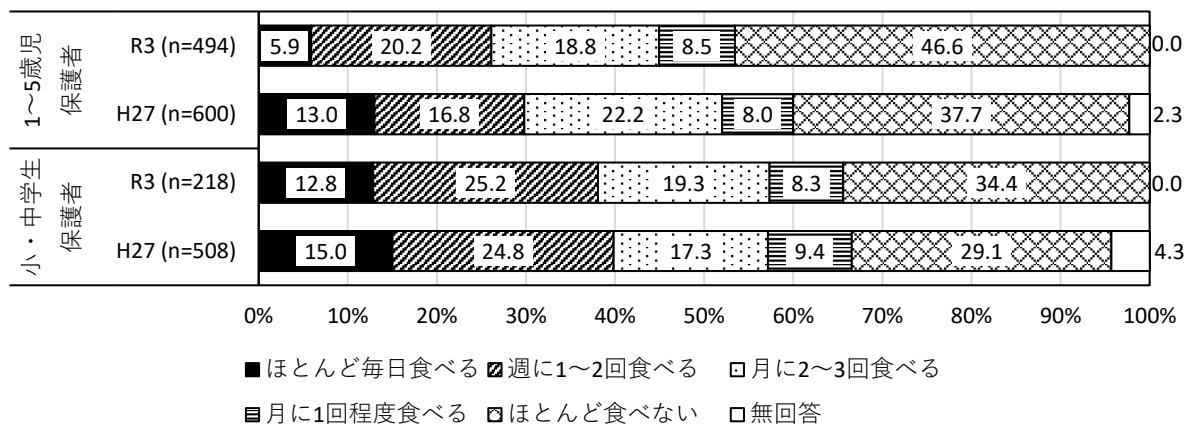
### < 「知っている」と回答した方が答えた入手先（複数回答） >

| 入手できる場所                 | 件数       |          |      |
|-------------------------|----------|----------|------|
|                         | 1～5歳児保護者 | 小・中学生保護者 | 総数   |
| JAみどりのファーマーズマーケット元気くん市場 | 103件     | 63件      | 166件 |
| 食品館イトー                  | 38件      | 38件      | 76件  |
| ビッグハウス                  | 38件      | 31件      | 69件  |
| デイリーポート新鮮館              | 43件      | 17件      | 60件  |
| スーパーの地産地消コーナー           | 32件      | 14件      | 46件  |
| イオン富谷店                  | 28件      | 9件       | 37件  |
| 産直市場あじわいの朝              | 21件      | 14件      | 35件  |
| ヤマザワ                    | 16件      | 13件      | 29件  |
| ヨークベニマル                 | 15件      | 7件       | 22件  |
| みやぎ生協                   | 9件       | 7件       | 16件  |
| カインズホーム                 | 9件       | 6件       | 15件  |
| ザ・ビッグ泉大沢店               | 8件       | 2件       | 10件  |
| おんないん会                  | 4件       | 5件       | 9件   |
| JA                      | 4件       | 3件       | 7件   |
| 西友                      | 4件       | 2件       | 6件   |
| セブンイレブン富ヶ丘三丁目店          | 6件       | 0件       | 6件   |
| とみやど                    | 4件       | 2件       | 6件   |
| 新鮮市場フレッシュマルシェ           | 2件       | 3件       | 5件   |
| 道の駅                     | 5件       | 0件       | 5件   |
| その他                     | 17件      | 4件       | 21件  |

### (9) 黒川地域産の農産物を食べる頻度について

家で黒川地域産の農産物を食べている人（「ほとんど食べない」「無回答」を除く）は、1～5歳児保護者が53.4%、小・中学生保護者が65.6%となっており、平成27年調査と比較すると、ともに若干減少しています。

家で黒川地域産の農産物を食べる頻度



|               | H27 基準値        | R3 中間評価 | R8 目標値 |
|---------------|----------------|---------|--------|
| 家で黒川地域産の農産物を  | 1～5歳児保護者 60.0% | 53.4%   | 80.0%  |
| 月に1回以上食べる人の割合 | 小・中保護者 66.5%   | 65.6%   | 80.0%  |

## 2 中間評価

### (1) 目標値の見直しについて

第2期富谷市食育推進計画に引き続き第3期富谷市食育推進計画では、第3期宮城県食育推進プランの目標項目にあわせ「メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の割合」を目標項目にしましたが、平成30年度に策定の富谷市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画との整合性を図る必要性があったことから、目標値は平成30年度以降に設定することになりました。

その後、富谷市国民健康保険第3期特定健康診査等実施計画では全国共通の目標及び目標値が設定され、「メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の割合」について明記がされていないことから、第4期宮城県食育推進プランの目標値(29.4%)を参考に目標値を新たに設定します。

#### <新たに目標値を設定する項目>

| 項 目                              | H27 基準値 | R3 中間評価 | R8 目標値 |
|----------------------------------|---------|---------|--------|
| メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の割合(40～74歳) | 26.5%   | 33.2%   | 29.4%  |

### (2) 評価方法

アンケート調査により中間評価を行うため、目標項目に対して評価項目を以下のとおり設定しました。

#### <達成状況の基準>

|   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| A | 中間評価の数値が目標値の100%以上(目標を達成した)       |
| B | 中間評価の数値が目標値の90%以上(目標までもう少し)       |
| C | 中間評価の数値が目標値の70%以上90%未満(まあできている)   |
| D | 中間評価の数値が目標値の50%以上70%未満(あまりできていない) |
| E | 中間評価の数値が目標値の50%未満(できていない)         |

#### <改善状況の基準>

|   |                                 |
|---|---------------------------------|
| ↗ | 中間評価の数値が基準値(平成27年調査)と比べて改善傾向にある |
| → | 中間評価の数値が基準値(平成27年調査)と変わらない      |
| ↘ | 中間評価の数値が基準値(平成27年調査)と比べて悪化傾向にある |
| — | 基準値が把握できないため評価が困難               |

### (3) 目標値一覧

| 項目                                 |             | 平成 27 年<br>基準値    | 令和 3 年<br>中間評価   | 令和 8 年<br>目標値 | 達成<br>状況 | 改善<br>状況 |
|------------------------------------|-------------|-------------------|------------------|---------------|----------|----------|
| 1. 子どもとその家族に向けた食育の推進               |             |                   |                  |               |          |          |
| 食事の時間が楽しいと思う人の割合                   | 小学 5 年生     | 86.5%             | 85.4%            | 90.0%以上       | B        | ↘        |
|                                    | 中学 2 年生     | 86.6%             | 93.9%            | 90.0%以上       | A        | ↗        |
| 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数            | 小学 5 年生     | 中間評価で調査           | 10.8 回           | 週 11 回以上      | B        | —        |
|                                    | 中学 2 年生     | 中間評価で調査           | 9.5 回            | 週 11 回以上      | C        | —        |
| 朝食を毎日食べる人の割合                       | 1～5 歳児      | 98.0%             | 97.2%            | 98.0%以上       | B        | ↘        |
|                                    | 小学 5 年生     | 95.3%             | 80.0%            | 98.0%以上       | C        | ↘        |
|                                    | 中学 2 年生     | 88.2%             | 82.7%            | 98.0%以上       | C        | ↘        |
|                                    | 1～5 歳児保護者   | 88.0%             | 80.6%            | 90.0%以上       | C        | ↘        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 83.1%             | 88.5%            | 90.0%以上       | B        | ↗        |
| 主食・主菜・副菜を揃えた朝食をほとんど毎日食べる人の割合       | 小学 5 年生     | 34.0%             | 25.9%            | 50.0%以上       | D        | ↘        |
|                                    | 中学 2 年生     | 32.2%             | 23.8%            | 45.0%以上       | D        | ↘        |
|                                    | 1～5 歳児保護者   | 21.7%             | 14.0%            | 35.0%以上       | E        | ↘        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 27.0%             | 17.4%            | 40.0%以上       | E        | ↘        |
| 肥満傾向児の割合                           | 小学 5 年生男子   | 11.0%             | 14.3%            | 9.5%以下        | E        | ↘        |
|                                    | 小学 5 年生女子   | 10.8%             | 12.5%            | 7.0%以下        | E        | ↘        |
|                                    | 中学 2 年生男子   | 11.3%             | 10.0%            | 8.0%以下        | C        | ↗        |
|                                    | 中学 2 年生女子   | 5.8%              | 7.3%             | 5.8%以下        | C        | ↘        |
| 子どもに家で食事の手伝いをさせている人の割合             | 1～5 歳児保護者   | 72.1%             | 73.8%            | 90.0%以上       | C        | ↗        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 82.1%             | 84.0%            | 90.0%以上       | B        | ↗        |
| 2. 生涯にわたって健康的に過ごすための食育の推進          |             |                   |                  |               |          |          |
| 野菜を毎食食べる人の割合                       | 小学 5 年生     | 39.9%             | 42.2%            | 50.0%以上       | C        | ↗        |
|                                    | 中学 2 年生     | 50.2%             | 50.2%            | 60.0%以上       | C        | →        |
|                                    | 1～5 歳児保護者   | 37.2%             | 46.6%            | 50.0%以上       | B        | ↗        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 37.6%             | 50.5%            | 50.0%以上       | A        | ↗        |
| メタボリックシンドローム<br>該当者及び予備群者の割合       | 40～74 歳     | 26.5%<br>(H26 年度) | 33.2%<br>(R2 年度) | 29.4%以下       | C        | ↘        |
| 3. 地域の「食」を活用した食育の推進                |             |                   |                  |               |          |          |
| 富谷市産の農産物がどこで入手<br>できるか知っている人の割合    | 1～5 歳児保護者   | 48.2%             | 41.7%            | 80.0%以上       | D        | ↘        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 50.2%             | 56.0%            | 80.0%以上       | C        | ↗        |
| 家で黒川地域産の農産物を月に<br>1 回以上食べる人の割合     | 1～5 歳児保護者   | 60.0%             | 53.4%            | 80.0%以上       | D        | ↘        |
|                                    | 小 5・中 2 保護者 | 66.5%             | 65.6%            | 80.0%以上       | C        | ↘        |
| 学校給食での地場産品の使用回数（富谷市産）              |             | 280 回/年           | 158 回/年          | 300 回/年       | D        | ↘        |
| 学校給食に宮城県産の食材を使用した郷土料理<br>を提供している回数 |             | 30 回/年            | 48 回/年           | 40 回/年        | A        | ↗        |

### 3 課題と今後の取組

#### (1) 子どもとその家族に向けた食育の推進（重点目標）

| 施策の方向性（第3期富谷市食育推進計画より抜粋）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本市の特徴である子育て世帯の多さに着目し、将来を担う子どもと、その家族に向けた食育を推進します。</li> <li>○ 子どもの成長に応じた食行動や食体験を取り入れた食育に取り組みます。</li> <li>○ 毎朝、家族で朝食を食べるなど、規則正しい食習慣と生活習慣を身につけることに、引き続き取り組みます。</li> <li>○ 様々な情報の提供や相談支援、指導など、食育に対する関心の高さを家庭での実践に結びつけていけるよう、施策を展開していきます。</li> <li>○ 世代を超えて食文化を伝えていけるよう、食文化や郷土料理の情報収集や継承に向けた取組を推進します。</li> </ul>                                                                                                                                                                   |
| これまでの取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間指導計画・食育年間計画・献立年間計画等の各計画に組み込み、計画に基づき年齢・学年に応じた指導等を実施している。</li> <li>○ おたより・掲示板・SNS・各種講座等のあらゆる手段により食育や食習慣に関する情報を周知・啓発している。</li> <li>○ 食を通したコミュニケーションや体験により食に関する関心を高めるため、クッキング講座・農業体験教室・高等学校との連携事業等を開催している。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 中間評価の結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食事の時間がとても楽しい・楽しいと答えた子どもが大半を占めており、中学2年生では目標値を達成している。小学5年生では若干減少し、目標値に達していない。</li> <li>○ 子どもの家族との共食状況は、夕食（7割以上）と比較し朝食は4～5割と低く、年齢が上がるにつれて家族と朝食を食べていない子どもの割合が高い。</li> <li>○ 朝食の摂取状況は、小・中学生保護者では増加しているものの、それ以外の対象者については減少しており、目標値に達していない。</li> <li>○ 主食・主菜・副菜をそろえて食べている人の割合は、朝食・昼食・夕食のすべてにおいてどの年代も減少傾向にあり、目標値に達していない。特に、朝食の割合が低い。</li> <li>○ 家での食事手伝いの状況は、増加傾向にあるが、目標値には達していない。</li> </ul>                                                                                        |
| 今後、強化していく取組の方向性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>○ <u>基本的な生活習慣の形成</u></p> <p>朝食の摂取状況は、小・中学生保護者では増加しているものの、それ以外の対象者については減少しています。「早寝早起き朝ごはん」という国民運動のスローガンにあるように、基本的な生活習慣が整っていることで朝食を食べることができます。特に、子どもの生活習慣は保護者から大きな影響を受け、「保護者の朝食摂取状況と子どもの朝食摂取状況」「保護者の帰宅時間と子どもの就寝時刻」には関連があると言われているため、家族全体で取り組む必要があります。あわせて、家族だけの問題として捉えるのではなく、ワークライフバランスを含めた社会全体の取組が不可欠です。</p> <p>その上で、主食・主菜・副菜をそろえた朝食を食べることは、朝食を食べるという行動のさらに一歩先の（ステップアップした）行動と考えられます。生活習慣の改善から主食・主菜・副菜をそろえた朝食を摂取できるようになるまでのプロセスには様々な課題が想定されるため、各課・各施設が連携し、各セクションにおいて個々の段階に応じた情報提供やスモールステップに取り組める方法を提示していく必要があります。</p> |

#### ○ 家族や友人等との共食の推進

食事の時間が楽しいと感じることは食生活が良好であることを示しており、食に関する興味の醸成や家族の団らんなど、食生活を豊かにするために重要です。そのため、コロナ禍により黙食等の制限がある状況においても大半の子どもが「食事は楽しい」と答えたことは、大変喜ばしい結果と言えます。

「食事の楽しさ」に関わるキーワードは「共食」「コミュニケーション」です。食事が楽しい理由として「家族・友達と話ができる」が上位に挙げられるとともに、食事が楽しくない理由としても「黙食」「家族全員で食べる時間が少ない」等が挙げられていることから、「共食」が「食事の楽しさ」を実感させる要因のひとつと考えられます。

特に、生活スタイルが多様化している家庭において、共食について考え実践できるよう情報発信していく必要があります。また、保育所・幼稚園・学校等においては、コロナ禍により大きく変容した食環境について、状況に応じて臨機応変に対応していく必要があります。

## (2) 生涯にわたって健康的に過ごすための食育の推進

| 施策の方向性（第3期富谷市食育推進計画より抜粋）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 生涯にわたって健康的に過ごせるよう、また、生活習慣病の予防にもつながるよう、食に対する知識の周知・啓発や栄養バランスに配慮した食生活の推進に取り組みます。</li><li>○ 食を通じて人と人との交流を図り、食生活の質の維持・向上を図ります。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| これまでの取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 適塩や野菜摂取などをテーマに各種講座を開催するほか、広報やホームページ、チラシやパンフレットの配布、SNS等にて周知啓発を行っている。</li><li>○ 参加者がコミュニケーションを楽しめるようサロンや料理教室等を開催している。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 中間評価の結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 野菜を毎食食べる人はいずれの対象者においても増加傾向にあり、小・中学生保護者では目標値に達しているものの、それ以外の対象者については目標値に達していない。</li><li>○ メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の割合は増加（悪化）しており目標値に達していない。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 今後、強化していく取組の方向性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ <u>健康寿命の延伸につながる食育の推進</u><br/>適正体重を維持することは、糖尿病や心筋梗塞、脳梗塞などの生活習慣病の予防につながり、健康寿命の延伸にもつながります。また、血圧を下げる働きがあるカリウムや食後の血糖の急上昇をゆるやかにする働きがある食物繊維、体の調子を整える働きがあるビタミン類が多く含まれている野菜を目標量摂取することも生活習慣病の予防やがん予防に効果的です。しかし、メタボリックシンドローム該当者及び予備群者の割合は高くなっており、野菜の摂取状況はどの世代においても増加傾向にありますが目標には達していません。<br/>そのため、生活習慣病予防につながる知識の周知・啓発や講習会の開催に引き続き取組み、健康寿命の延伸につながる食育の推進に努めます。<br/>あわせて、子どもとその家族に向けた食育の推進に記載のある「基本的な生活習慣の形成」は、生活習慣病の予防や健康寿命の延伸につながり、あらゆる世代の人に大切なことであるため、幅広い世代に向けて食に関する知識の周知・啓発に努めます。</li></ul> |

### (3) 地域の「食」を活用した食育の推進（重点目標）

| 施策の方向性（第3期富谷市食育推進計画より抜粋）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地場産品をより知ってもらうため、地場産品やその入手先、提供される店舗、レシピなど、地域の「食」に関する情報提供に引き続き努めます。</li> <li>○ 地場産品として推奨している農作物について、子どもの頃からより親しみを持ってもらえるよう取り組みます。</li> <li>○ 家庭においても地産地消に取り組んでもらえるよう、周知・啓発に努めます。</li> <li>○ 子どもの頃から地域の「食」に触れられるよう、農業や食に関わる人々との交流活動や体験学習を推進します。</li> <li>○ 食育の推進のための人材の発掘に努めます。</li> </ul>                            |
| これまでの取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広報・ホームページ・SNS・保育所や幼稚園のおたより・各種講座等のあらゆる手段により地域の旬の農産物や販売店等に関する情報を周知している。</li> <li>○ 保育所給食・学校給食において富谷市産・黒川地域産の農産物を利用している。</li> <li>○ 地産地消の推進を目的に、市内での直売スペースの確保や販売方法の拡充に努めている。</li> <li>○ 農業体験教室・とみやはちみつプロジェクト出前講座等の食体験講座や地域の食の理解を深める講座を開催している。</li> <li>○ 健康推進員に対して食や健康に関する研修会を開催し、食育講座や保健事業への協力体制構築に努めている。</li> </ul> |
| 中間評価の結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 富谷市産の農産物の入手先を知っている人の割合は、1～5歳児保護者では減少、小・中学生保護者では増加しているがほぼ横ばいであり、目標値に達していない。</li> <li>○ 家で黒川地域産の農産物を月1回以上食べる人の割合は、減少傾向にあり目標値に達していない。</li> </ul>                                                                                                                                                                      |
| 今後、強化していく取組の方向性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>○ <u>地産地消の推進</u></p> <p>富谷市産の農産物を家庭において消費してもらうことは、富谷市の地場産品や食文化への愛着を醸成し、市内の農業や小売業などの活性化につながります。</p> <p>しかしながら、富谷市産を含む黒川地域産を食べる人の割合が減少しており、どこで地場産が買えるのか知らない割合も増えていることから、地場産の直売スペースの拡充や産地標記を意識した購買意欲の向上に努めながら、富谷市産及び黒川地域産の農産物の入手先等の地産地消に関する知識の周知・啓発に取り組む必要があります。</p>                                                                                        |

### (4) 計画の推進に向けて

食育に関する施策や活動を計画的かつ効率的に実施するため、引き続き、市民をはじめとして地域で食育や地産地消に取り組んでいる団体や学校、企業、生産者や飲食店等と連携・協働し取り組みます。

庁内においても引き続き食育推進連携会議のもと関係各課と連携・協働し、必要に応じて取組内容の見直し・改善に努めます。